



文部科学省 科学技術・学術政策局
科学技術・学術総括官

特別寄稿

合田哲雄 氏 「福岡の思い出」

1970年生 岡山県倉敷市出身。92年文部省入省。福岡県教育庁高校教育課課長、国立大学法人化、学習指導要領改訂を担当。初等中等教育課程課長、財務課長等を経て現職。上越教育大学、東北大学、東京大学の非常勤講師。『学習指導要領の読み方・活かし方』『受験のルールが大きく変わる！2020年教育改革が目指すもの』等著書多数。

「福岡県で学んだことは、危機管理において逃げないということです。」

私が福岡県教育庁高校教育課長として仕事をさせていただいたのは、今から20年前になる2000年9月からの1年11ヶ月間で、着任したときは30歳でした。文部科学省の職員にとって教育委員会への出向は、職業生活における一つの大きなピークなのですが、私が福岡県で経験し、学ばせていただいたことは特に得難いものだったと感謝しています。また、福岡教育連盟の先生方(当時は、西田智執行委員長でいらっしやいました)にも大変お世話になりましたことを重ねて厚く御礼申し上げます。

福岡県立高校の先生方の姿に圧倒

福岡県での思い出は数限りなくあり、一つ一つ思い出す度に、教育行政に携わる者としてお育ていただいた福岡県に対する感謝の念で溢れるのですが、とにかく圧倒されたのは、形無しになっていた首都圏の公立高校を尻目に、子供たちのために骨身を惜しまず全力投球する福岡県立高校の先生方の姿でした。課長公舎は修猷館高校の裏手にありましたが、その体育祭には度肝を抜かれましたし、城南高校のドリカムプランの周到さには心から感じ入りました。鞍手商業高校(当時)の「ステップアップテスト」の取組を拝見した際には、基礎・基本は必ず修得させて子供たちを卒業させ、自立させたいという先生方の思いに心から賛同し、2009年改訂において高校学習指導要領総則に、必要に応じて義務教育の学び直しを行うことは高校教育の重要な役割と明記する背景となりました。小倉工業、豊津(当時)、福岡農業、水産、博多青松、筑前、久留米筑水、八女、田川工業(当時)、嘉穂中央(当時)などなど、名前を聞く度にその学校にお伺いした際のさまざまなシーンが蘇ってまいります。

上司、同僚、政財界…思い出の数々

また、城戸秀明義務教育課長(現教育長)や吉田法稔高校教育課課長補佐(現九州歴史資料館長)など文部科学省のキャリア組よりもずっと能力も志も高い教育庁の猛者たちと一緒に仕事できたことも、私にとって生涯の財産になっています。

教育を支えてくださる応援団、例えば、県議会の先生方や県高P連の皆様、メディア関係者、大学関係者、川原健ふくや会長(当時)などの福岡経済界の皆様といった方々への感謝も尽きません。特に、福岡県議会の先生方には政治家として選挙を勝ち抜き、県民の代表として責任ある行動をするとはどういうことかということを経験からお教えいただきました。現在、参議院自民党の中核メンバーとしてご活躍の大家敏志参議院議員(当時、県議会議員)とは永田町でお目にかかる度にその頃の県議会のことが話題になります。

福岡県で学んだこと

何より私自身が福岡県で学んだことは、危機管理において逃げないということです。福岡県在任中、生徒指導上の問題、高校入試や大学入試など子供たちの人生にかかわるトラブルで危機管理を求められることが何度かありました。戸惑い、できれば避けたいと思うこともありましたが、福岡で学んだことは、危機管理で厳しい局面だからこそ真正面から向かい合い、事実関係をしっかりと把握し、組織のメンツに関係なく今最善の策は何か、それを実現するためには誰の理解や協力が必要かを考え、協力を求めて飛び込んでいく以外に最善の策はないこと。厳しい状況のなかで飛び込んでいった相手が自らリスクを負ってでも子供たちのためならと助けていただいた経験を重ねるうちに、管理職として逃げずに場合によっては嫌われ役を買ってでも行動することが、学校において子供たちが安心して学ぶことにつながると実感したことは、今の私の土台になっています。

重ねて感謝するとともに、福岡県の教育の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。